

本時のねらい

街中で見かけたことのある芸術作品について学び、自分たちの身のまわりにある芸術作品について目を向け、パブリックアートについて理解する。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

街中で見かけたことのある芸術作品を鑑賞し、生徒一人ひとりが、作品を通して作者の考えを感じ取って、自分たちが考えた作品名を、タブレットPC上で共有する。他者と自分の感じ方、考え方の違いに気づかせることで、より深い鑑賞活動へと生徒を導くことをねらいとした。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレットPC
- ・ロイロノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	・ロイロノートに送られてきた画像を鑑賞できるように、自分のタブレットPCへ取り込む。	・ロイロノートで、今回学ぶ作品の画像を送付する。
展開① (20分)	・作品の特徴からどういった作品名なのかを予想し、ロイロノートの付箋機能を使用し、提出箱へ提出する。	・付箋機能を利用し、作品名だけでなく、作品の画像を添付することでより作品名を考えやすくする。
展開② (20分)	・クラス全体で作品名の予想を共有し、ほかの人の考えを知る。 ・予想した作品名と実際の作品名を比較し、作者の考えを感じ取る。 ・実際の作品名など、スライドで提示される内容をプリントに記入し、パブリックアートについての知識を習得する。	・気になる作品名の画面を提示して意見を発表させる。生徒端末にも画面配信をする。
まとめ (5分)	・ロイロノートの付箋に本時の授業の振り返りを記入させる。	・ロイロノートの提出箱へ提出させる。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：教員からカードが送られてくる様子



写真2：画像に作品名をつけている様子

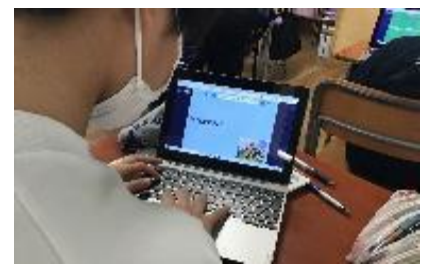


写真3：教員が配信した代表生徒の画像を自分の端末で確認している様子

児童生徒の反応や変容

- ・初めて見る作品の作者が、実は身近な作品の作者だということに気づいた時に驚きを感じていた。多くの生徒が、その作者についてもっと知りたいと自分たちでインターネットを使い、他の作品にどんなものがあるかを調べようとしていた。
- ・作者の意図を考える際、まず生徒自身が作者の気持ちになって考えることで、より一層その作品への興味、関心を持てるようになった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・ロイロノートに画像を貼り付けることにより、資料集だけではわかりにくい作品の細かい部分を拡大できた。また、同じ作者の別の作品画像を瞬時に共有できるので、共通点を見つけたり、比較したりするなど、鑑賞活動の幅が広がった。
- ・本実践のように、クラスの友達と考えを共有することで、他人と自分の考えの違いに気づき、お互いが様々な感性にふれる経験ができた。